

## 5. 活動報告

### 5. 1. 会議録

#### (1) 第1回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成18年9月28日(木) 14時00分～16時30分

場 所 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター第一会議室

#### 出席者(委員)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	長谷川 昭
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	日野 亮太
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層研究センター	研究チーム長	岡村 行信
東京大学地震研究所地震火山災害部門	教授	瀬瀬 一起
東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東京大学地震研究所地震予知研究推進センター	教授	平田 直
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	海野 徳仁
海洋研究開発機構 地球内部変動研究センター	研究推進スタッフ	伊藤 亜妃(金田代理)
仙台管区气象台 技術部	地震情報官	内藤 宏人
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	源栄 正人

#### (オブザーバー)

文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	石関 隆幸
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	小河原 隆広
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	三浦 哲

#### 議事概要

##### 1. 挨拶

長谷川主査(東北大理)より、開会の挨拶があり、佐藤委員長(東北大理)の司会により、議事を開始した。

##### 2. 宮城県沖地震アスペリティ周辺におけるプレート間すべりのモニタリングの実現

(東北大理:日野) 資料18-1-1・2

東大地震研金沢教授が欠席のため、日野委員が長期海底地震観測・短期海底地震観測の両方の説明を行った。

17年度に引き続き、海底地震計解析・相似地震解析・GPS 解析を行って、2005年8月16日に発生したM7.2の地震前後での、プレート間固着・すべり状態の時空間変化を調べている。

今年度計画でも、引き続き長期・短期OBSの観測態勢を昨年度と同様に行っている。

### 3. 仙台・石巻平野における地質調査に基づく過去の活動履歴の把握

(産総研：岡村) 資料18-1-3

H18年度の仙台・石巻平野における地質調査の計画について説明を行った。仙台平野側では、昨年度調査試料の年代測定と解析がほぼ終わり、新たに鳥の海のジオスライサー調査を行った。

石巻平野側に関しては、秋以降、津波堆積物追加調査を行う。

### 4. 過去の活動履歴を把握するための地質学的調査（沿岸域における地質調査）

(東北大理：今泉) 資料18-1-4

H17年度宮古周辺のジオスライサー調査を行ったところ、1000年以上前の、古い堆積物しかみつからなかったため、H18年度は、大船渡市周辺でジオスライサー調査を行った。

その結果、チリ地震津波らしき堆積物がみつき、他の歴史時代に記録が残っている規模の大きい津波に伴う堆積物の同定とめざす。

### 5. 宮城県沖地震震源域周辺の最近の活動状況（東北大理：三浦）

陸域地震GPS連続観測データを用いた、8/16の地震余効すべりの時空発展と過去の地震活動に関する調査結果を報告した。

### 6. その他（文科省：小河原）

今年度の予算についての連絡があった。

### 7. 閉会の挨拶

作成者：事務局 飯淵 みか

(2) 第2回 宮城県沖地震における重点的調査観測運営委員会 議事録

日 時 平成19年3月6日(火) 14時00分～16時20分

場 所 東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター第一会議室  
出 席 者 (委員)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	長谷川 昭
東京大学地震研究所地震地殻変動観測センター	教授	金沢 敏彦
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	日野 亮太
東北大学大学院理学研究科環境地理学講座	教授	今泉 俊文
産業技術総合研究所活断層研究センター	研究チーム長	岡村 行信
東北大学大学院理学研究科固体地球物理学講座	教授	佐藤 春夫
東京大学地震研究所地震予知研究推進センター	教授	平田 直
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	教授	海野 徳仁
海洋研究開発機構 海底地震・津波ネットワーク開発部	部長	金田 義行
防災科学技術研究所	総括主任研究員	堀内 茂木
仙台管区气象台 技術部	地震情報官	内藤 宏人
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	今村 文彦
東北大学大学院理学研究科環境動態論講座	教授	箕浦 幸治
東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター	教授	源栄 正人

(オブザーバー)

文部科学省研究開発局地震・防災研究課	本部係長	石関 隆幸
文部科学省研究開発局地震・防災研究課	地震調査官	宮岡 一樹

(事務局)

東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	助教授	三浦 哲
東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター	事務補佐	飯渕 みか

議事概要

長谷川主査(東北大理)より、開会の挨拶があり、佐藤委員長(東北大理)の司会により、議事を開始した。

1. 宮城県沖地震アスペリティ周辺におけるプレート間すべりのモニタリングの実現

(東大地震研：金沢) 資料18-2-1

金沢委員から、人工地震探査により明らかにされた宮城県沖地震震源域の地震波速度構造についての説明があった。

2. 宮城県沖地震アスペリティ周辺におけるプレート間すべりのモニタリングの実現

(東北大理：日野) 資料 18-2-2

日野委員から、プレート間すべりのモニタリングについて、今年度の成果についての報告があった。また、19年度のOBS観測態勢について説明があり、引き続き海底地震観測の充実を図る予定である旨の説明があった。

3. 仙台・石巻平野における地質調査

(産総研：岡村) 資料 18-2-3

岡村委員から仙台・石巻平野における今年度の地質調査の成果について報告があった。来年度より津波シミュレーションに着手する予定であることを説明した。

4. 過去の活動履歴を把握するための地質学的調査（沿岸域における地質調査）

(東北大理：今泉) 資料 18-2-4

今泉委員により、東北地方太平洋沿岸域における地質調査の成果について報告があった。来年度は福島県・岩手県南部などで、地質調査を行う予定。

5. 第一回運営委員会議事録の承認

特に訂正・意見等がなかったので、議事録は承認された。

6. 成果報告書について（文科省：石関）

平成18年度の成果報告書は、以下のスケジュールで進めたい。

5/31までに、H18年度成果報告書を3冊作成し、文部科学省に提出。

なお、東北大は再委託分も合わせて成果報告書を取りまとめる。

7. H19年度計画について

主査より、H19年度から強震動予測に関する調査研究が開始されることがアナウンスされた。

8. 閉会の挨拶

主査より、次年度も引き続き研究をお願いしますとの挨拶があった。

作成者：事務局 飯渕 みか